

みどころいっぱい浦富海岸

① 牧谷のカキツバタ群落(又助池)



又助池は、浦富砂丘の後背地に残された湿地です。5月中旬ごろには美しいカキツバタの花が咲きます。この湿地では、カキツバタの他にカンガレイ、ショウブ、ヌマトラノオなど約30種類の湿性植物が確認されています。平成15年には、県自然環境保全地域に指定されました。

② 岩美町立渚交流館



浦富海岸エリア大使 佐々木えるざ

山陰海岸ジオパークの拠点施設の一つとして、2010年にリニューアルオープンしました。渚交流館では、シーカヤックやシュノーケリングをはじめ、さまざまな体験学習を受け付けています。(問)0857-73-0118

③ 山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館



渚交流館と同様に、2010年に山陰海岸ジオパークの拠点施設の一つとしてリニューアルオープンしました。山陰海岸学習館では、山陰海岸ジオパークの地形・地質やそこで暮らす生物について総合的に学ぶことができ、年間を通じて野外観察会や講座なども行っています。(問)0857-73-1445
<http://site5.tori-info.co.jp/~museum/gakusyukan/>

④ 熊井浜



熊井浜の南側は花こう岩の海食崖、北側は凝灰角礫岩の海食崖が続いています。これは、熊井浜を東西に通る断層があるため、地質の違いにもなって、南北の植生の違いも観察できます。

⑤ 龍神洞



龍神洞は、幅8m、高さ10m、奥行き150mもある山陰海岸最大級の海食洞です。写真は「海の龍神洞」と呼ばれており、その西側には「陸の龍神洞」があります。

⑥ 羽尾の流紋岩岩脈



羽尾岬の東にある円山に面した凝灰角礫岩の崖には、2本の流紋岩の岩脈が貫入しており、断層のために円山の手前でとぎれているのが観察できます。また、この断層に沿って海食が進んだために、岬と一続きであった円山は孤立して丸い形になりました。

⑦ 西脇海岸



東浜海水浴場の西側に位置し、花こう岩の島々からできています。白い砂浜と青い海、白い花こう岩と青い松のコントラストが絶景をつくり、「寝覚の佳境」とも称されています。

⑧ 離水海食洞



海食洞とは、岩石が波などによって侵食されてできた地形ですが、海面より高い位置に見られる海食洞は離水海食洞とよばれます。離水海食洞の位置は、そこにかつての海面があったことを示しています。

おすすめ：陸上洞門



兵庫県との県境にある陸上(くがみ)岬にある海食洞門です。穴は北西方向を向いており、冬の季節風と荒波によって侵食されたものです。

おすすめ：新井三嶋谷墳丘墓



弥生時代後期に造られた墳丘墓です。墳丘墓の下の岩石には、穿孔貝(せんこうがい)の巣穴の化石(生痕化石)があり、海面が現在よりも高かった時代の貴重な証拠だと考えられています。

ジオコラム①

地質による植生の違い

熊井浜の南側には白っぽい花こう岩、北側には黒っぽい凝灰角礫岩の海食地形が見られます。これは、岩石の間に断層があり、花こう岩の上を覆っていた凝灰角礫岩層が落ち込んだため南北に並んで分布するようになったものです。また、地質に対応して植生が変わり、花こう岩地帯には松林が、凝灰角礫岩地帯には照葉樹林が生育しています。



北側の照葉樹林



南側の松林

クイズの答え

① 離水海食洞

ジオコラム②

熊井浜とエリザベスサンダースホームの子どもたち

熊井浜の中央には、鷗鳴荘(おうめいそう)という建物があります。これは、岩美町出身の国連大使の澤田廉三氏の別荘跡です。ここでは、夫人の美喜さんが設立したエリザベスサンダースホーム(児童福祉施設)の子どもたちが、毎年夏に訪れて海水浴を楽しみました。子どもたちにとっては思い出の多い浜です。



思い出を秘める鷗鳴荘



貴重な自然の渚